2018 年 10 月 19～26 日

第三回アジア・太平洋地区 NCM 実務者会議　於：東ティモール

JNCM・NCM 日本代表：篠澤俊一郎

背景：
インドネシアフィールド：シンガポール・インドネシア・東ティモールの内、東ティモールが再貧困地域且つ、子どもが多い国という事があり、貧困問題・子ども支援の観点より
フィールドワーク・協議の場所として相応しいとの事で東ティモールの首都：ディリでの開催が決定した。

日本からはアクセスがかなり不便で、大手代理店では東ティモールへの航空券を扱っていないため、海外サイトでのアクセスが必要となり。直行便がない為、乗り換えも必ず 2 回行わないといけないため、所要時間が 20 時間以上になってしまう。

実務者会議 - 参加者
・出席国：日本、フィリピン、インドネシア、ミャンマー、カナダ、韓国、パプアニューギニア、ジョー（アメリカ）8 か国

出席者：篠澤（日本地区）、ダン(フィリピン地区)・ヨディ・イチャベツ（グアム・マリファナ諸島地区）、ロォニ（マレー半島・インドネシア地区）、ジェロム（東アジア/ミャンマー・ラオス・タイ）、ワット（APNCM コーディネーター）、マテューガルマン（パプアニューギニア地区）、ジャスミン（フィリピン）、　ヤン、ユン（韓国地区）ジョー・ヤン（アメリカ・宣教師）

---
21 日　教会訪問
100 人程度の集落の漁村にあるナザレン教会を訪問。場所：ティバラ
首都ディリからは約 20 キロの距離であるが、海岸線の道路が高潮や落石などでところどころ陥没しており自動車での移動で約 1 時間かかった。

途中、JICA が支援し舗装された道路が続いた。
沿岸部の教会で脇にビーチが広がる自然豊かな教会。

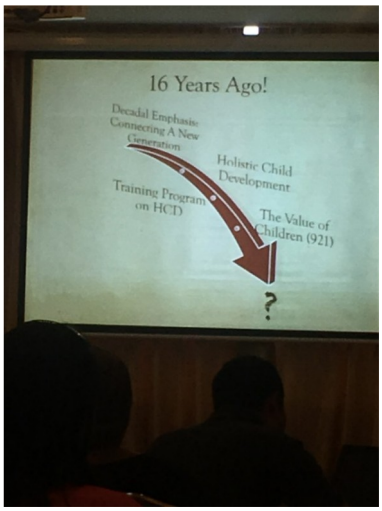
東ティモールには山々がそびえており、災害で一番怖いのは津波。
漁村自体は高台にあり大丈夫のようだ。
ただここの場所を韓国企業が買収してリゾート化するとの事。
ここでの収入は漁業のみ。日本ではあまりイメージできないと思うが、貧困国での漁業に従事する人はホントに最貧困層なのでここリゾートになる事は彼らにとっては本当に嬉しい話のようだ。
ただ手つかずの自然が観光地化される事を考えるとちょっと寂しくもあるし、ここのリゾートがうまく行かなった場合、より高台にすむここの住民が漁業に支障をださないか心配。
韓国や中国企業は採算を度外視して商業施設を立てる傾向にあるのでいい場合はいいが、駄目だった時の現地への影響が計り知れない。
しかし、日本企業は採算ばかり重視して慎重になりすぎて海外進出が進まない。
これらの問題は結構・複雑。
JICA によって道路が舗装され、舗装された先には韓国リゾートがある。ちょっと色々考えさせられた。
100 人くらいの村の中でナザレン教会に通う人は 15 人程度。今日は特別という事で他の教会から 10 人程、集ってくれた。現地の言葉はポルトガル語と現地の言葉が混ざったもの。ポルトガル語をしゃべる人達はほんの一握り。
貧しいものの笑顔が絶えなかった。富んでも笑顔がない日本の環境等、色々考えさせられるが教会が心の支えになっているのは間違いない。宗教のあり方を色々と考えさせられる。

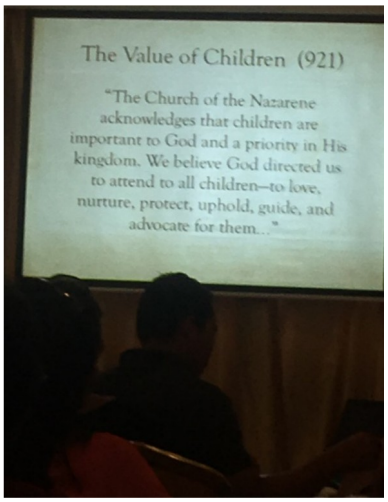
礼拝後は食事をごちそうしてくれた。1 日 2 ドル以下の生活を強いられている中でこのような食事は特別。人招く心が一段と大きい事に感謝。

「日本人が私たちの食事を美味しいと言っているよ！」と笑いが絶えなかった。
このような場所では教育を教会が担っている側面が大きく、教会では手を洗う事をしっかり教えていた。

このような場所での食事はA型・B型肝炎の危険も考えないといけないがトイレもしっかり整備されていたのでその危険性は低そうだ。（もちろん、予防接種はしていますが、、）
ただ、ごみの集荷などの行政サービスがないためプラスチックなどのごみが散乱していた。
犬や豚などはここでは掃除役として活躍している。アルビノの豚をみたのは初めてだった。
ここでの移動手段はワゴン車などの乗り合いバスやバイク。あとは荷台に乗せてもらうなど。私たちが首都に帰る際も教会の人を荷台に乗せた。しかしアップダウンが激しく彼らのバランス感覚のすごさには驚かされたのだった。

22日　NCMミーティング
各国が報告を行う前に、その報告をする代表がデボーションを行うというスケジュールで進んでいく。
今回のテーマは【こどもとはどんな存在か】・【神から与えられた子どもに対して私たちはどのように接する必要があるのか】等、教会としてそしてNCMとしてこどもとどう向き合うかを議論しシェアするというワークショップ形式で進んでいった。ナザレンのマニュアルにも子どもの価値について記されている。





『ナザレン教会は子どもが神の国に近く主に招かれる重要な存在である事を認める。わたしたちは、全てのこどもの世話を、愛、養育、見守り、励まし、導きによって進めるよう神が監督し、私たちがこどもの代弁者である事を信じる。』

●インドネシアフィールド（マレーシア・シンガポール・インドネシア・東ティモール）

・災害支援報告

スラウェシ島中部パルを襲った地震と津波によって2000人以上が犠牲になっている。

インドネシアNCMは現地に赴き、現在12人態勢で災害支援活動を行っているが、NCM事務所から飛行機で2時間程度かかる場所で、現地へのアクセスが大変難しく、物資輸送なども思うように進んでいない。現在、イスラム教支援団体とも連携し災害支援を行っているが、これからの活動の見通しが立たないくらい被害は大きい。神から知恵と勇気が与えられるようこれから祈っていきたい。

（支援活動ついて説明する口二牧師）

・子ども支援

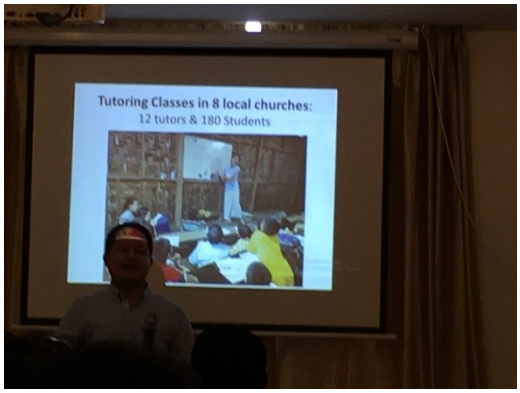
インドネシアには子ども支援センターが設立されており、教育支援・子育て支援を進めている。

東ティモールでも子ども支援を進めており、現在東ティモール政府とも連携を取り進めている（下記の詳細）

各フィールドの報告が終わるとそのフィールドのために、皆で祈るときをもちます。

●東アジアフィールド（ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー）
・学習支援 - ミャンマーでは小学生・中学生を対象に 8 個の教会で個別学習支援指導を行っている。そのほかに公立学校への水供給支援（井戸掘り）なども思っている。
前回、NCM ジャパンの仲介でミャンマー在日本大使館とミャンマー NCM を繋げたが今年度中にこの水供給支援を大使館と共に進めていくとの事。

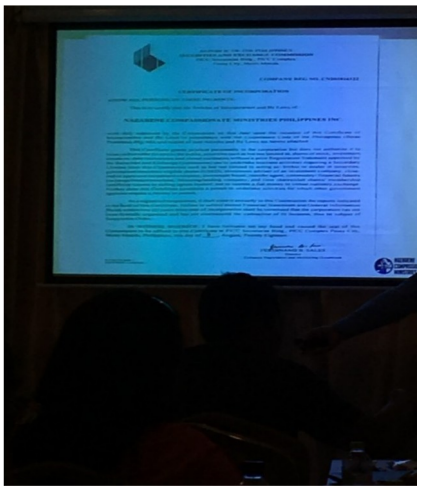
・職業支援–特に女性の職業支援を進めている。



報告を行うジェロム牧師。

●フィリピンフィールド
フィリピンでは子ども支援を始め、人身売買防止、SNS やインターネットを使用した性犯罪が横行しておりそれを防止するための講座を各教会や各機関において開いている。

〇紛争解決
フィリピン・ミンダナオ島ではテロが起こった事を皮切りに、キリスト教（カトリック/プロテスタント）・イスラム教の宗教者会議が設けられ、キリスト教団体が【イスラム原理主義が掲げる主張などはフェイクニュースであり、今共に過ごしているイスラム教徒への正しい理解をキリスト教徒に伝えていく活動】を進めている。



〇フィリピン NCM を NPO 法人化
これまでフィリピン NCM はナザレン教会内向けの支援活動をこれまで進めてきたが災害支援・人身売買防止、また政府との繋がりや助成活動を推し進めるため、今年の春に NPO 法人化を実施。

昨年、日本の NCM 組織化について紹介したがそれも参考になったとの事。
今年度中にフィリピン NCM 事務所を開設する予定。4 月の NCM 会議では視察も実施される予定。

●韓国フィールド
〇韓国国内のネットワーク作り
韓国ではそれぞれの教会で宣教師を送り支援活動をこれまで行ってきた。
韓国ナザレン本部がそれを把握し協力関係を持つことはこれまでなかったが、この 1 年で教団本部と各教会の宣教師との繋がりを強化し、NCM の活動として推し進めてきた。
　また、大学とも連携し子ども支援・特に子育て支援また貧困層への食糧支援などにフォーカスし、各自治体とも協力関係づくりを行っている。
昨年行われた NCM 実務者会議にて日本が行っている組織化を韓国方式にアレンジしネットワーク作りに力を入れている。これらを推進したヨン牧師は韓国ナザレン本部より表彰されたとの事。

＜余談＞
ヨン先生は全く英語がしゃべれません。
しかし、会議の場所など下調べを徹底的に行い、会議に毎回来られます。
英語がしゃべれなくても海外の会議に来られる勇気に私はとても励まされました。

●ポリネシア南太平洋地域 (パプアニューギニア・ソロモン諸島、フィジー、トンガ、サモア、バ

ヌアツ、ポリネシア南太平洋）

〇洪水

パプアニューギニアでは洪水が起こり、その支援活動について、今回初めて参加されたガルマン牧師が報告された。

〇地震

パプアニューギニアは今年すでにマグニチュード 6 を超える地震が 4 回起こっており、ナザレン教会のメンバーを中心に支援活動を行った。

※パプアニューギニアは 14 の部会を持ち 700 教会、約 5 万人のナザレン会員がいる。

ガルマン先生はまだこのフィールドの責任者になって間もないので報告は以上だった。

日本

子ども支援を中心に、大阪地震・西日本豪雨災害・北海道地震の被害について状況説明を行った。

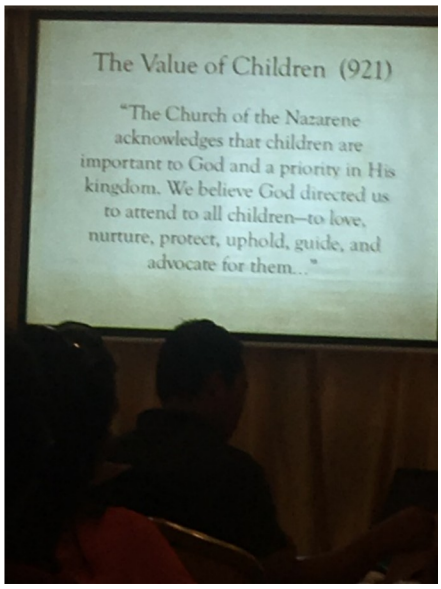
また先日行われた江上師・土居兄・篠澤師の JNCM・NCM 協議で話し合われた土木チームのネットワークが今後必要であることを説明。

また京都で行われている子ども支援が NCM マガジンに掲載された事を報告。

この雑誌に載る事は名誉な事であるので皆で喜びをわかちあった。

今回の議題：子ども支援とは？

アジア・太平洋地区で一番力を入れているのが子ども支援。



ナザレンマニュアル 921 条

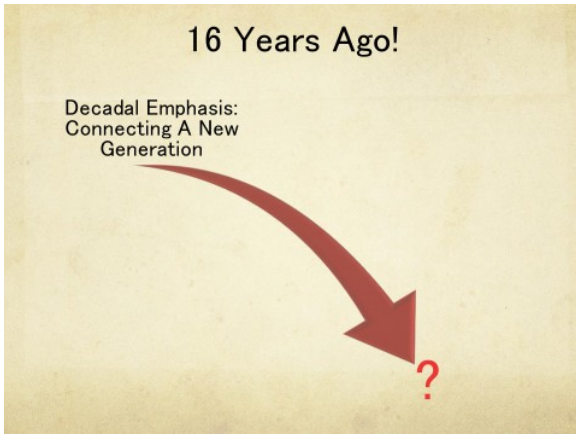
ナザレン教会は子どもが神の国に近く主に招かれる重要な存在である事を認める。

わたしたちは、全てのこどもの世話を、愛、養育、見守り、励まし、導きによって進めるよう神が監督し、私たちがこどもの代弁者である事を信じる。（私訳）

Children as Carriers of Mission（宣教を仲介・運んでくる子ども達）

- The children as an agent of God's provision: **Joseph**
- **エジプトに売られた子：ヨセフが神のご計画を仲介しヤコブの家族を救った。**
- The child as a Prophet: **Samuel**　**サムエルが神の預言を伝えた**
- The child as Liberator: **David**　**少年ダビデがイスラエルを解放した**
- The child as community resource: "The Boy"
  神はコミュニティ・コミュニケーションの源として「子ども」を用いられる

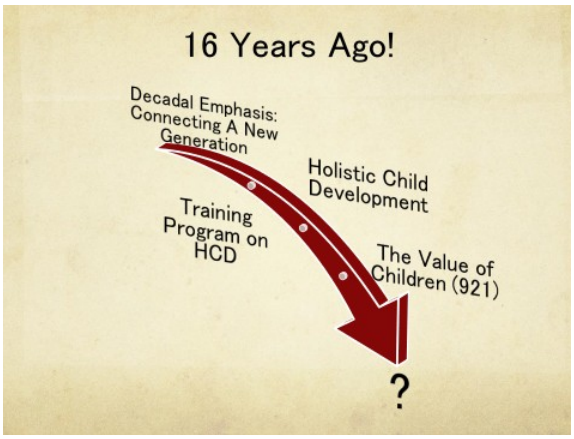
＜フィリピンにおける子ども支援の成り立ち＞



【16 年前】

10 か年計画で新たな世代のためにと始めた。

そのときにはこれからどんな事が起こるのか等、予想もできなかった。

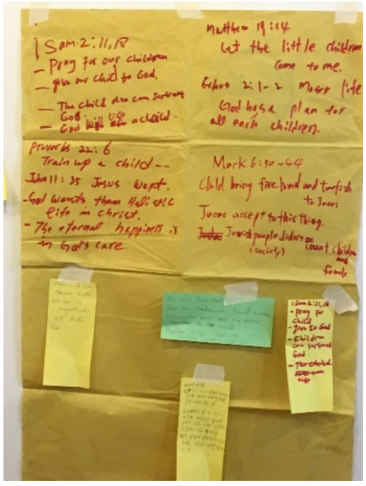


●子ども支援を開始。

●子ども支援センター開設。

●ナザレンマニュアルに子どもの価値について新たに規定された。

○各フィールドの代表者同士で子どもの存在、聖書における子どもの記述などを話し合うワークショップを行った。



●実際に東ティモールで行われている子ども支援の視察を行った。
車で約 2 時間半の村。

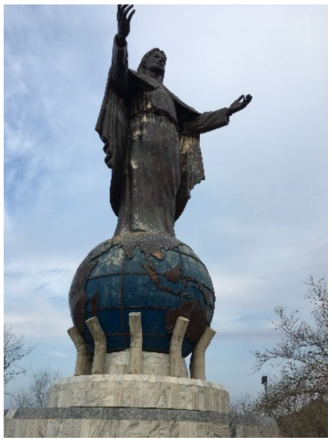
ここでは【幼稚園】、【学校の放課後学び支援】、【中学· 高校生の学び支援】、【職業支援–プログラム等】を教えている。日曜日には礼拝も行っている。最初はナザレン単独で行っていた活動も国の信頼を受けて、助成を受けているとの事。

現在の課題はこの場所を借りているので買い上げて支援を続けていきたいとの事。
（買い上げ額約 50 万円）

東ティモールで活躍されている牧師先生。7 か国語をしゃべる事ができる。インドネシア統治時代（インドネシア語）、国連軍の統治時代（英語）、独立後～現

在（ポルトガル語）などを生き抜かれて培われた語学力との事。

＜東ティモール概要＞
人口：200 万人ほど
宗教：カトリック教会が大多数。プロテスタントは少数。それに続いてイスラム教と続く。
ポルトガル語を教育では公用語に指定。独自の紙幣はなく米ドル札を使用。硬貨は独自効果あり。
物価は輸入に頼っているため日本とあまり変わらない。
一日の賃金が 2 US＄。
農業が主な産業。貧困家庭にもスマートフォンが普及している（情報を得たり、緊急津波警報などをキャッチするため）。台風などの災害はないが津波や高波が主な災害。
　イリエワニが多く、毎年多数が犠牲となる。しかしイリエワニは東ティモールでは神聖な動物として扱われており、保護の対象となっている。

イリエワニが海岸から入ってこないようにこのような柵を設けている。

世界で 2 番目に大きいキリスト像が入江の端にそびえたっている